Unicorn ID Manager

Active Directory 証明書サービス

インストールガイド

オープンソース・ソリューション・テクノロジ(株)

作成日:　　2011 年 12 月 19 日
リビジョン:　1.0

目次

1.　証明書サービスインストール

本文書は、Unicorn ID Manager で Active Directory を連携する際に必要となる証明書サービスのインストール手順について説明します。

Unicorn ID Manager と連携するためには、証明書サービスのインストール後に、マシンの再起動が必要となります。

1.1 Active Directory サーバーへの証明書サービスのインストール

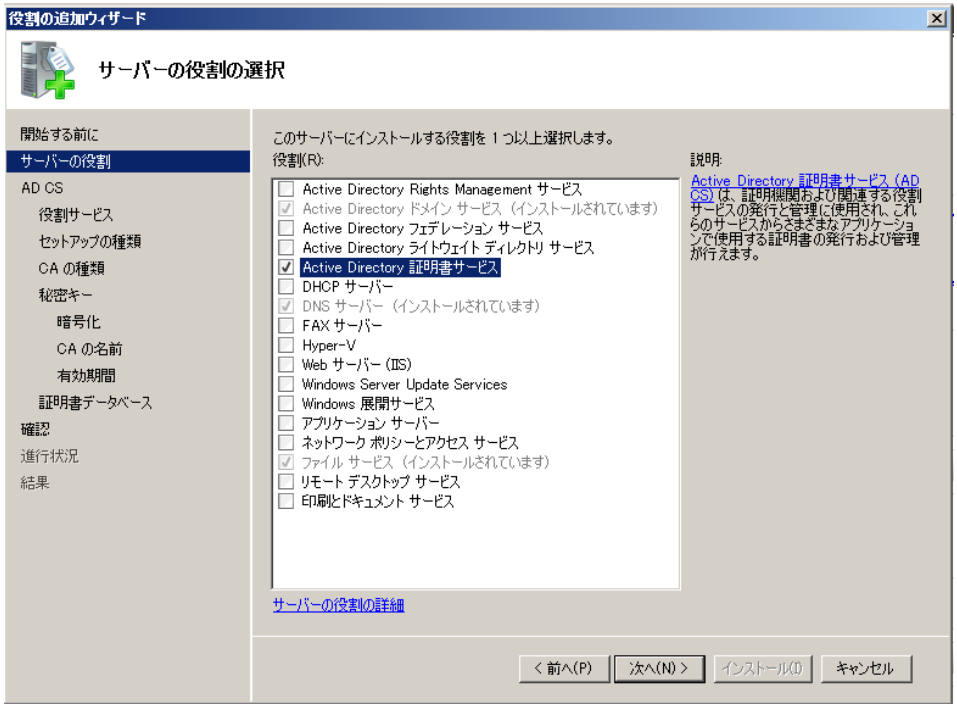
Unicorn ID Manager から Active Directory と LDAPS 通信を行うために、Unicorn ID Manager の通信相手となる Windows サーバーに証明書サービスをインストールする必要があります。

証明書サービスのインストール後には、**Windows サーバーの再起動**が必要となります。

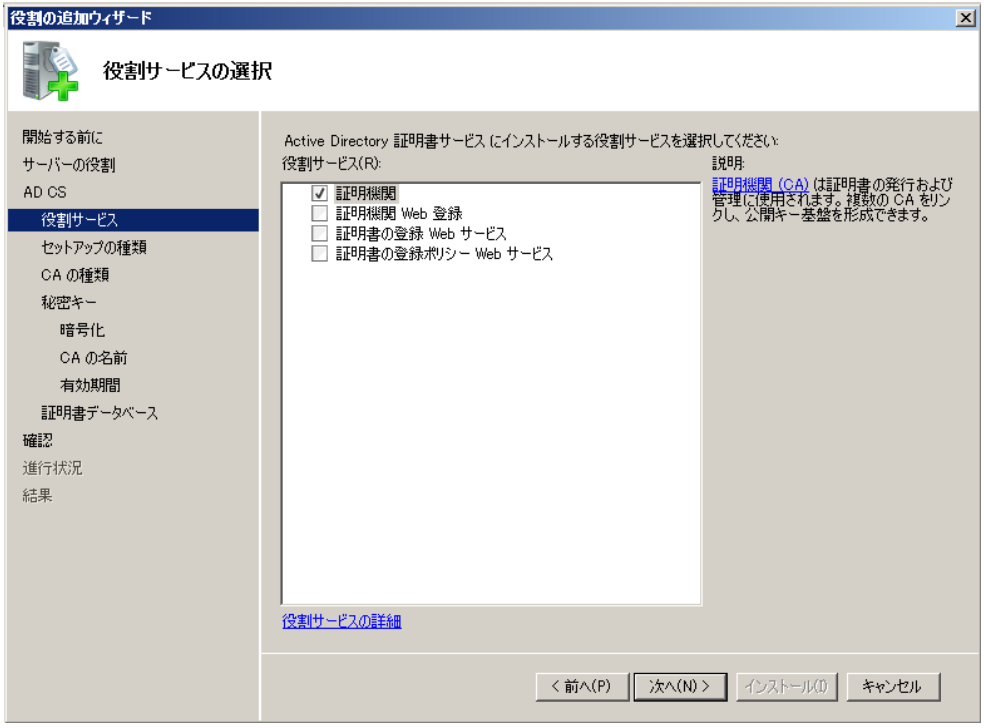
1.1.1 証明書サービスのインストール

「スタート」-「管理ツール」-「サーバーマネージャー」で、サーバーマネージャーを起動し、「役割の概要」から、「役割の追加」を選択します。

「役割の追加ウィザード」が起動しますので、「サーバーの役割の選択」画面で、「Active Directory 証明書サービス」を有効にします。

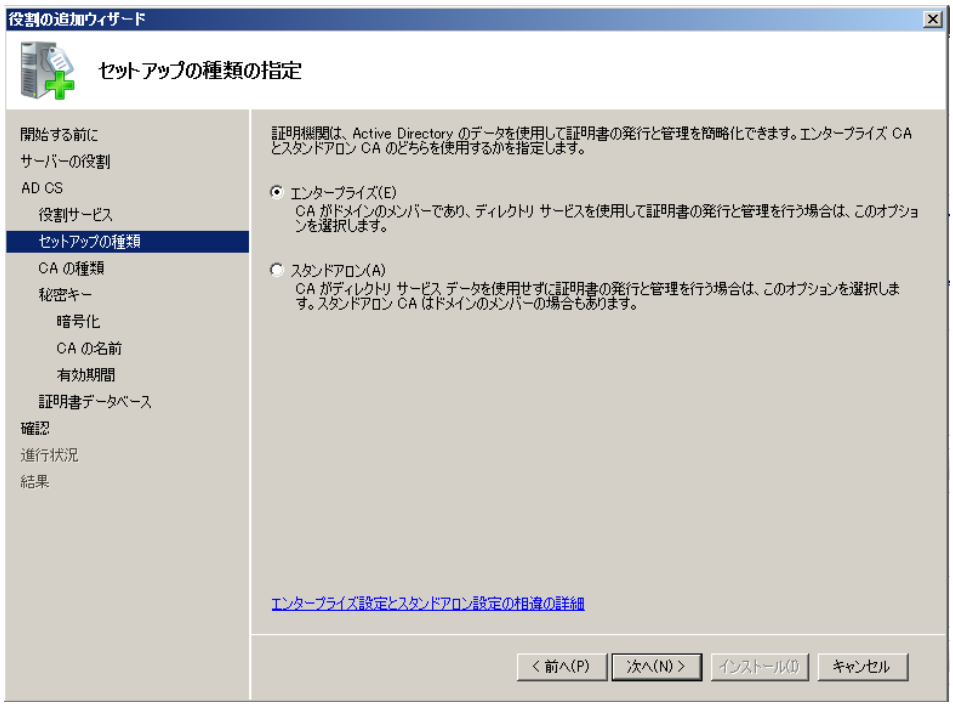


「役割サービスの選択」で、デフォルトの「証明機関」が有効になっている状態で、「次へ」を押します。

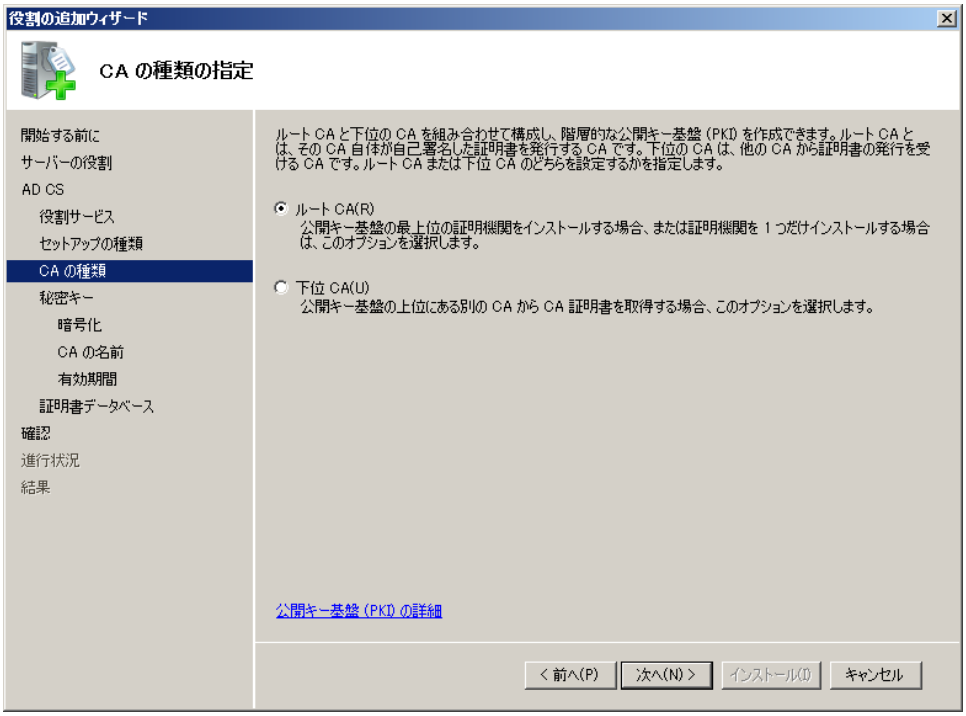


目次

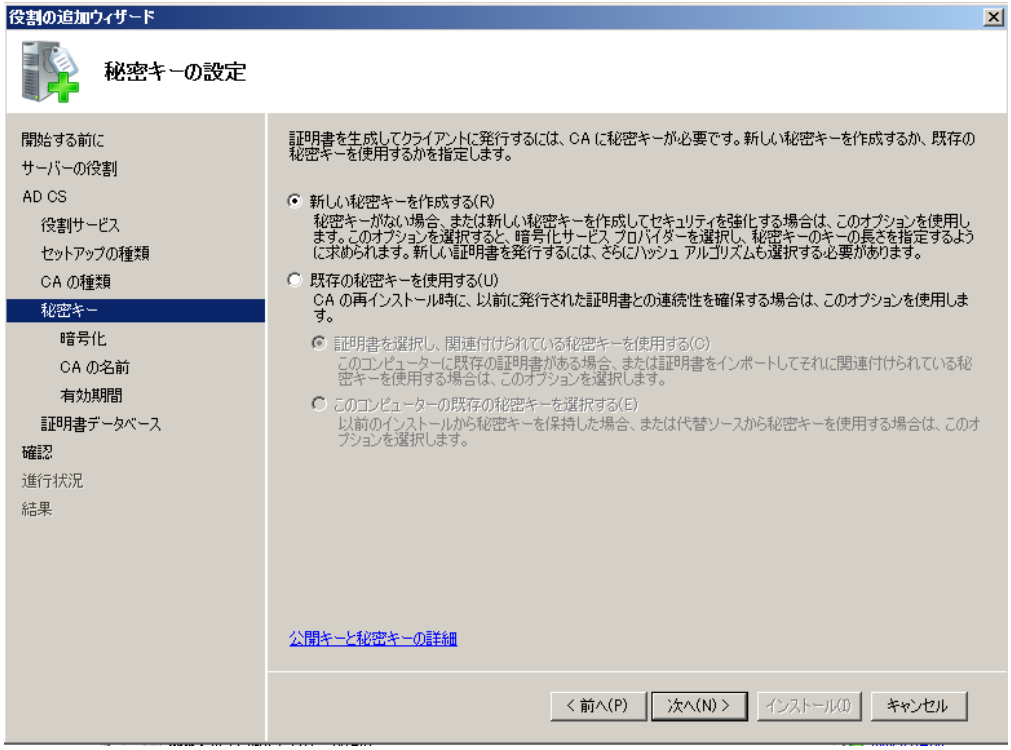
「セットアップの種類の指定」で、「エンタープライズ」を選択します。



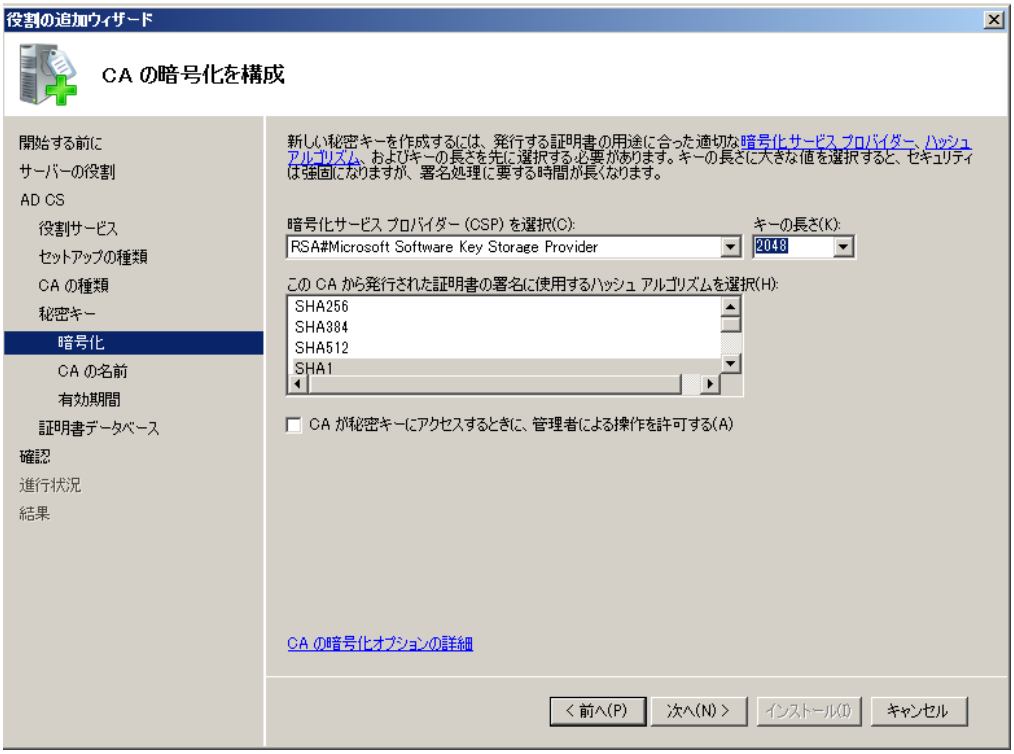
「役割の追加ウィザード」で、「ルート CA」を選択します。



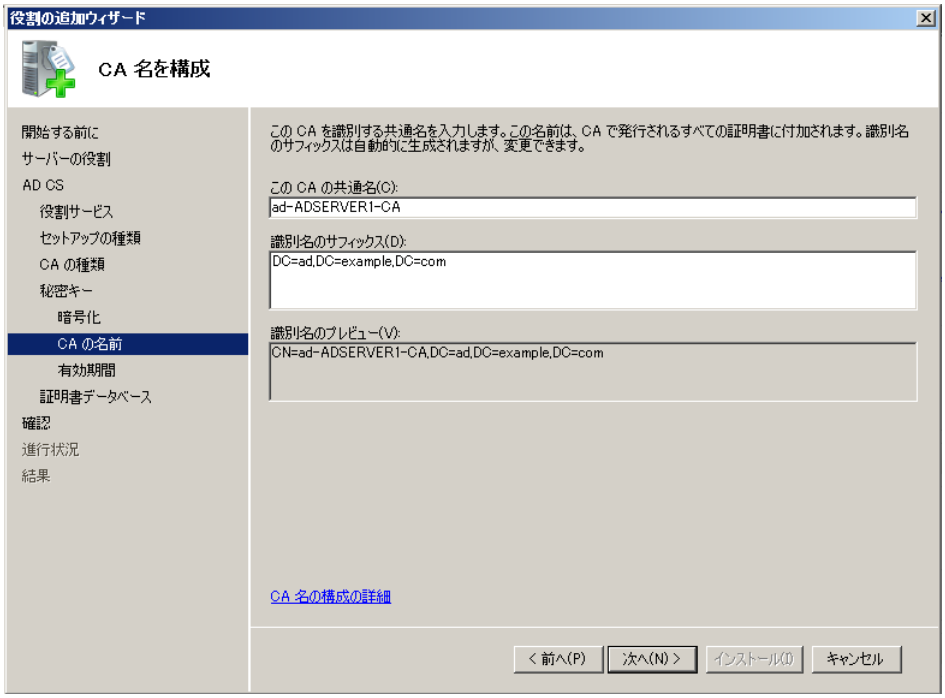
「秘密キーの設定」で、「新しい秘密キーを作成する」を選択します。



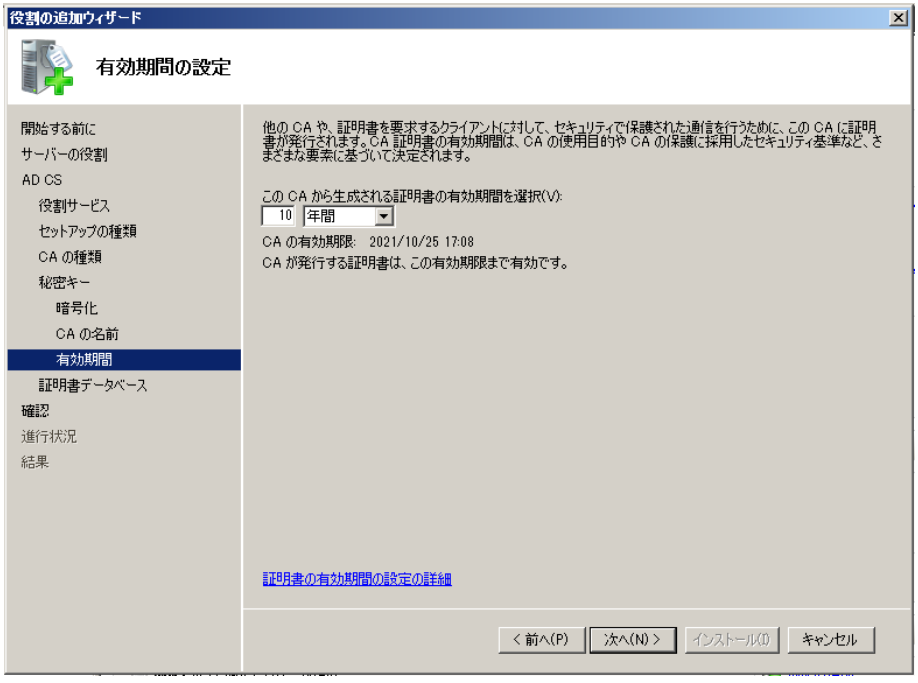
「CA の暗号化を構成」で、デフォルトの「RSA#Microsoft Software Key storage Provider」「2048」、「SHA1」を選択したまま、「次へ」を押します。



「CA 名を構成」で、「この CA の共通名」をデフォルト値、もしくは、この Active Directory に構築された CA であることが分かる名称を設定します。



「有効期間」の設定で、有効期間を設定します。有効期間が短い場合、証明書の期限切れが発生して、Unicorn ID Manager との連携が行えなくなりますので、本システムを利用する期間を満たす十分に長い期間を指定してください。（例：10 年間など）



目次

以降の画面は、「次へ」で設定を進めてください。

証明書サービスのインストール後、Windows サーバーを再起動します。

以上で証明書サービスのインストールは完了です。

目次

2. 改版履歴

- 2011年12月19日
  - 初版作成